



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



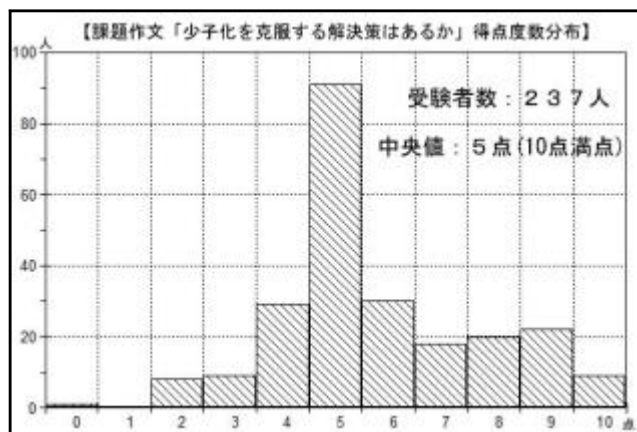
No. 11

課題作文「少子化を克服する解決策はあるか」

1 事実に基づいて作文を書く習慣を身につけよう

中間試験の課題作文では、少子化を克服する解決策をどのように考えるかを中心課題として作文を書いてもらいました。

今回の作文の評価は、1年生の時の作文よりも厳しい評価基準で行いましたが、中央値が5点になりました。学年全体としては、まずまずの結果だと言って良いと思います。



作文を書くために、資料の中の細かい数値まで記憶する必要はありませんが、「解決策」を考えるためには、問題になっていることを資料から客観的に読み取れる「事実」に基づいて説明する必要があります。その点については、多くの人が授業で話題にしたことや、「**なんでやねん**」の資料をよく見て、解決策を考えていたことが作文に現れていました。

今回の作文のポイントは、①少子化が進行することによって起きる問題は何か。②少子化を招いているのはどのような要因によるものか。③少子化の要因を解消する手立てはどのようなものがあるのか、何が可能か。そして、④「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に対して、自分はどのような立場に立つかを明確にすることでした。

①の問題点を具体的に説明できないと、②の原因を説明する意味がありません。そして、③の解決策は②の原因に対応したものである必要があります。つまり、①と②と③の説明が、すべて論理的につながっている必要があるのです。自分の主張したいことを裏づける論拠に「事実」を使って説明することが大切でした。

また、④の考え方に対して、肯定する立場では、女性の社会進出を抑えて女性が家事と育児に専念できるように支援するべきだということになるでしょう。反対に、④の考え方を批判する立場からは、女性の社会進出と少子化には関係性がなく、育児や家事の両立をどれだけ保障しているかの問題だということになります。

ここでも、いずれの立場に立つにせよ、事実に基づいて説明する必要がありました。

2 作文の課題

2019年の日本の社会では、少子高齢化が進行しています。このままの状況が続くと、2060年には日本の人口は8,674万人になると言われています。

そんなことを勉強しているときに、あなたは、政府関係の仕事をしている人から「とりあえず、高齢者の増加による問題の解決方法は置いておいて、少子化の問題を解決する方法はありませんか。あなたの意見を聞かせて下さい」と、アイデアを求められました。少子化問題の解決策を考えると、「男性は仕事、女性は家庭」と考え、女性の社会進出(就^{しゅうぎょう}業)が少子化の原因だと主張する人達もいます。

少子化でおこる問題点を指摘し、あなたが考える解決方法を説明しなさい。

3 どのように作文を書けば良かったのか(採点基準)

【採点基準】

- ◎ 文章全体で、①「少子化の問題点」、②「少子化の原因」、③「少子化を克服する対策」の3つの論点に触れていること。これらの3つの論点をすべて書くことができている場合のみ、6点以上とする。
 - ①「少子化の問題点」について触れている(次のうち、どれかを取り上げていること) … 各1点
 - ㊦日本の人口減が続くようになる ㊩日本の経済力が低下する
 - ㊧若い層の負担が増える ㊪地方の町が崩壊する
 - ②「少子化の原因」について触れている(次のうち、どれかを取り上げていること) … 各1点
 - ㊦若者の未婚率が高い ㊩子育てに多額の資金がいる ㊧仕事と育児の両立が難しい ㊪労働環境が厳しい ㊦若者の所得が低い ㊫教育費が高い
 - ㊧女性の社会進出が進んだ ㊫核家族化の進行 など
 - ③「少子化を克服する対策」について、②であげた原因を克服する方法について自分の意見を書いている … 2点
- ◎ 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に対する、自分の意見を書いていること … 2点。

この論点は、女性の社会進出をどのように理解するかと深く関わっている。
ただし、子どもの利益を無視して、親の利益だけを追求する考え方は許されないことに注意すること。
- ◎ 文章全体の論理が一貫していること(話の筋道が通っていて、現実的に成り立つこと) … 2点。
- ◎ ①②③の論点のうちの一部が欠ける文章は、最大でも5点とする。
- ◎ 前後の文章と論理的に成り立たない文章は、後の文章を加点しない。
- ◎ 10点満点とする。5つ以上の論点に触れる作文内容であっても10点を上限とする。

4 友達の作品から学ぼう

次に、8点以上の「答案」の一部(20人分)を紹介します。

主張(結論)は似ていても、主張に至る根拠は様々です。自分の作文との違いなどを確認しながら、読んで下さい。きっと、新しい学びがあるはずです。

なお、ここで紹介する作文は、少子化の問題を克服するために「どのような解決方法を提案するか」を「主な指標」にして分類しています。

ただ、どの作文も複数の解決方法を示していますので、その作文で強く印象に残る点に注目して分類しました。ですから、この区分が正確なものでないことを予めお断りしておきます。

「原文」のまま紹介していますので、文中の誤字・脱字は修正していません。注意して読んでください。「答案」の下(※寸評:)は、私(倉橋)のコメントです。

(1) 育休制度の完全実施や拡充が必要だとする作文

D組H.W. 少子化が進むと年金制度の維持が難しくなり医療費等も高騰する。また労働人口が減るため経済成長がにぶくなり、少ない若い世代の人々が多くの高齢者を支えなければならなくなる。この少子化をうみだしている要因としては、若者の所得が低いのに子育てにかかる資金が高いこと。労働環境が厳しいこと、「男性が育児・家事にあてる時間が少ないこと」と、「女性の社会進出が高まっていること」が重なっていることなどが上げられる。「男性は仕事、女性は家庭」と「女性の社会進出」を原因と思っている人もいるが、私はそう思っている人たちの意識も少子化の要因の一つであると思う。では、どのような解決方法がいいだろうか。男性の育児・家事にあてる時間が少ないことには「まわりの人が働いているのに自分だけ休むのはダメだ」と思っている事、休みを取ろうとしたら周りから冷たい目で見られるなどの職場の雰囲気が関係していると思う。少子高齢化がそこまで進んでいない北欧では国・会社など社会全体が子供や親に対しての配慮があり、育休をすすめている。また、学校や病院など日本では子供に対してもお金がかかっているが、北欧は子供は無料で学校や病院に行ける。なぜ、そのようなことができるのか。それは高い税金をとり、そのお金で子育てサービスを充実させているからだ。このように日本でも、1.会社の労働環境が良くなるよう1人1人の意識改かくをする。2.会社などに託児所をつくるなどして親が働きやすいようにする。3.少し税金をあげて、保育園・幼稚園、子供の病院を無料化する。などをしたら、単独世帯の人や、夫婦のみの世帯の人でも今より安心して子供を産み育てることができるようになると思う。

(※寸評:この作文は、少子化の問題点を的確に指摘した上で、少子化の要因について男性の育児・家事にあてる時間の少ないことに求めているところに特徴があります。他の多くの作文は、男性の家事・育児時間を少子化の要因に上げることはしていません。その上で、育休が取りづらい日本の職場の様子も紹介して、育休の取得を克服すべき課題として明確にしています。それだけでなく、自分で調査したことも書き加えて対策を具体的に紹介することに成功している優れた作文です。)

E組A.I. 少子化によって起きる問題は①納税が減り、年金制度の維持が困難になる②医療費の高とう③一生働かないと生活できなくなる④人口減で町が崩壊⑤日本の経済力が下がる⑥医療・介護業界の人手不足だ。少子化の原因は、①育

児にかかる資金が多額②若者が低所得③若者の未婚化・晩婚化の進行④女性の高学歴化による社会進出⑤厳しい労働環境などが挙げられる。その改善策として、まず結婚したい若者を増やすこと、男性が当たり前に育児への参加ができる職場環境にすること、女性が労働と育児を両立できるようにすることが必要だ。そのために、結婚して共働きをし、安定した収入を得ること、労働時間を短縮し、育児の手伝いができるようにすること、保育所の充実、児童手当の支援、男女共に育児休暇の取得をすること、職場復帰後のキャリア継続の容易化、学校無償化などをすれば良いと思う。女性の社会進出が少子化の一因とする声もあるが、スウェーデンなどのように、女性の育児と労働の両立ができてきている国もある。だから、「女性は家事と育児が仕事」とする社会体制が問題だと思う。地方自治体や国、企業が丸一丸となって育児における心身・経済面への負担軽減のための支援が求められる。

(※寸評:この作文は、少子化の問題点と要因を網羅的ですが簡潔に説明しています。対策を説明する場面では、男性が当たり前に育児に参加することを前提にして論を進めていて、自分の立場を一貫させています。ただ、女性が労働と育児を両立させることができるように支援する必要があると主張することは分かりますが、女性の生きがいと社会進出の関連についても触れて欲しかったですね。)

E組S.N. 今の日本では、少子高齢化が進行しています。このままの状況が続くと、2060年には日本の人口は8674万人になると言われています。日本の人口が減ると、生産力が弱くなり経済力も弱くなったり、医療費の高騰や、医療や介護業界の人手不足などの問題が発生します。ぼくは、出産・育児支援はもちろんのこと、男性の育児や家事に充てる時間を増やすことが少子化対策になると思います。少子化の原因は、女性の社会進出だと言う人もいますが、実際に日本よりも合計特殊出生率が高い国のほとんどが日本より女性労働率が高いので、一概に女性の社会進出が少子化の原因だと言えないと思います。また、日本より、合計特殊出生率が高い国は、男性の育児・家事に充てる時間が長いので、日本も、就業時間を一定させたり休暇制度を整えたりして、男性の育児・家事に充てる時間を増やす必要があると考えます。さらに、日本の「男は仕事、女は家庭」という社会的風潮をなくし、男女が協力していく必要があると思います。他に少子化対策をとらない限り、必ず、育児・出産の支援と、男性の育児・家事に充てる時間を増やす必要があると考えます。

(※寸評:この作文は、日本以外の先進国の実情をふまえて、女性の社会進出が少子化の要因ではないと明確に主張できています。男性の育児・家事にあてる時間の確保の必要性を主張する内容にも説得力があります。)

E組A.N. 少子化でおこると考えられる問題は、人手不足だ。人手不足により、日本の経済が低迷し、経済力が下がると貿易が困難になる可能性があると思う。少子化の原因は、若者の未婚化が進んでいることが一番だと思う。その理由として、家族全員分の生活費、子どもの教育費を払うほどお金がない。や、子どもができて、あずける場所がない。などがあるだろう。これを解決するために、私はまず、育休の長期取得を男女ともに義務化する必要があると思う。育児を女性だけでするのはではなく、男性も一緒にするのだ。もし共働きの場合はお互いの育休をずらして、交代で育児をする。または、どちらも同時に育休をとって家族でござせる時間をとったり、2人で助けあいながら

育児をする。そうすることで、女性が1人で行っていたことも男性が手伝うことにより負担を減らすことができる。そして次に保育所などの問題だ。私は、すでに廃校になった小学校の内装を変えて、保育所や幼稚園として再利用するというのが良いと思う。そうすることで広い運動場も同時に手に入れることができ、わざわざ近くの公園まで行く必要もなくなる。すると、行き帰りで起こる可能性のある交通事故も防ぐことができるのではないかと思う。この2つの意見が私が考える少子化の解決方法だ。

(※寸評:この作文は、少子化の問題点を簡潔に説明した後、その要因を若者の未婚化に求めて対策を考えようとしています。その上で、男女の長期育休の義務化を大胆に提言し、さらに廃校になった小学校を保育所に改造するなど提案が具体的です。また、最近に滋賀県で起きた痛ましい交通事故を教訓に、安全な保育にまで言及している点が印象的です。)

E組M.M. 私はこのまま何もせずに2060年までいったら必ず人手不足になると思います。今ではまだ大丈夫かもしれないけれど、高齢化も進んで行くから老人の介護の人手不足も問題になると思います。また、若い世代は少ないから、年金や医療費も一人の負担する量がとても増えると思います。そうすると若い世代の所得が減り子どもを生むどころか未婚化が進んでいくのではないかと思います。そもそも少子化になっていった原因はやはり若い世代の所得が減ったことにあると思います。お金がないと結婚したり子どもを生むのは厳しいのではないかと思います。他にも男性が育児や家事をあまりしないということにも問題があると思います。「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、最近は女性も社会進出をし、「女性は家庭」という考えは変わったように思います。しかし実際には結婚して共働きの場合「男性は仕事、女性は仕事と家庭」というふうに変わったのではないかと思います。なので少子化を解決するには子育て支援や若い世代への負担など変えるところはいっぱいあると思いますが、まずは女性だけが育児や家事をし、男性は仕事しかない、あくまで手伝うだけという社会全体の考え方を直す必要があると思います。そうして子育て中の人々が男女ともに休みやすい環境を作り男女共に育児や家事を積極的に取り組むことが少子化問題への第一歩ではないかと思いました。

(※寸評:この作文は、少子化の要因を若者の所得の低さに求めていることに特徴があります。若者の所得が低いから、未婚率が高いと論理的に少子化の要因を整理しています。そして、女性だけが仕事と家事・育児の両方を担わされている実情を鋭く指摘しています。その前段の指摘が、若い世代の負担を軽減するべきだとする、後段の対策に説得力を持たせている力作です。)

(2) 保育所など子どもを預かってくれる施設の増設が必要だとする作文

B組Y.H. このまま少子化が進んでしまうと、将来、年金制度の崩壊などの問題が起こってしまいます。少子化を止めるために無理に子供を作れと言う必要はありません。子供を作ってみようかとなと思わせる周りの環境が大事だと思います。例えば、「育休」。子供が産まれてすぐの頃は子育てが大変なので働いていた女性は「育休」を取られる方が多いでしょう。ですが、女性ばかりに任せているのはどうなのでしょう。私はよくないと思います。お父さんとお母さん両方が育休を取れば、普通の育休の2分の1ずつ取ることが可能になるので、産後の女性の離職率の低下も期待できるでしょう。両親が共働

きの家庭の子供は大体、保育園に通います。でも、現在保育園の数は足りていません。そのため、少し前には自分の子供を入れてくれなかった国に対して「日本死ね。」などのツイートもあったほどです。そのようなことのないように、保育園・ようち園の設置数の増加を行った方が良いと思います。それに合わせて、保育士さんを増やした方が良いと思います。でも、保育園ってお金結構かかりますよね。そこで保育の無償化なども考えてみたら良いと思います。このように少子化問題を解決するには、まず「子育てがしやすい環境」を整えることから始めた方が良いと思います。親子の住みやすい、生活しやすい環境を誰もが望んでいるのではないのでしょうか。

(※寸評:この作文は、少子化の要因について直接的な説明はできていませんが、要因をていねいに克服する政策を具体的に提案することで、作文上の不備を補っています。特に、両親が共に育休を取得することは、かなり大胆な解決策ですが、実現方法は今後の課題としておきましょう。後半の、保育園の増加の必要性和高額な保育料に言及している点は、実際の社会の実態を踏まえていて説得力があります。)

B組I.T. 近年、高齢者の数が4人に1人と増えてきており、それを支える若者たちが、出生率の低下により、減ってきている。このままでは、年金制度が崩壊する可能性がある。

出生率が上がらない理由として、最近の若者の未婚率が高くなっていることがあげられる。子どもを産む前には結婚するものだ。結婚する人が少なくなっている理由として上げられるのは、家族を養うための給料がないことがあげられる。ならば、会社の給料の水準を上げたり、正規雇用の枠を増やせばいいのではないだろうか。

次に、出産の後のことだ。出産の後に子どもを入れる保育園の数が足りず、人手不足になっている。また、保育園の先生は重労働で、給料も少ないので、保育園の先生になる人が少ない。ならば、保育園の先生の労働時間を減らし、給料を上げて高齢者にも働いてもらうのはどうだろうか。こうすれば、高齢者の生きがいにもなるだろうし、先生不足も解決できるだろう。

このようなことをすれば、少子化問題も解決できるのではないだろうか。

(※寸評:この作文は、保育園の不足問題を視野に入れて、保育士の仕事が重労働で低賃金であることに触れています。さらに、高齢者を保育所で活躍してもらう提案をしています。このことで高齢者の生きがいを実現することと、保育士不足の問題を解消するという、両方の難問を解決する具体的な方法を提案している力作です。)

C組Y.M. 日本の社会は、共働きで子育てが困難。子どもをたくさん育てるお金がない。結婚年齢が高まった。といった原因から子どもが減っている。だが、このままではいけない。なぜなら、年金制度の維持が困難になるからだ。他にも、生涯働き続けられないといけないから、すぐにではないが、人口減少で人手不足になり、経済がおとろえるからといった理由がある。こうならないようにするためには、①男性の育児休暇を取りやすくする。②子どもがたくさんいる家庭は教育費を無料にし、子育て支援金を送る。③保育所を増やす。④子育て相談や親子同士が交流できる場を増やす。といった子育てのしやすい環境をつくるのが大切である。①と③について詳しく説明する。①は男性の育児時間が長いほど、女性の合計特殊出生率が高くなっているため、男性も育児に協力できるようにするべきだ。③は保育士の不足で保育所がつかれ

ないので、保育士を増やすのに、保育士として働く人にはプラス何万円か国が払うようにすればよいと思う。これらのことは国が税金の使い方を見直せば可能なことではないだろうか。また、地域の協力も必要になってくる。最後に、少子化の原因は女性の社会進出にあると主張する人もいるが、日本よりも女性が社会進出をしているのに、女性の合計特殊出生率が高い国はたくさんあるから、女性の社会進出が大きな原因とはいえない。

(※寸評:この作文は、少子化の問題点と原因を網羅的に挙げています。また、保育士の不足に国からの補助を提案するというアイデアをしていることに特徴があります。ただ、この作文は、日本以外の先進諸国は女性の社会進出が高くても合計特殊出生率が高いことを前提に主張していますが、他国のことに触れることを忘れているために、やや説得力に欠けるのが残念です。)

F組Y.O. 少子化が進んでいることでの問題点は、沢山あります。まず、働ける人が少なくなり人手不足になること、また、税を納める人が少なくなり年金制度がなくなること、日本の経済力の低下など、他にも様々です。少子化が進んでいる原因は、若い人たちの非婚化だと思います。お金によゆうが無い、結婚願望が無い、働いている女の人だと、結婚すると働きづらくなるという理由の人もあると思います。また、養育費がない、育てるのが大変などの理由で、結婚していても子どもを産まない人がふえていることを原因だと思います。この問題を解決するために、女性が働きやすい職場をつくるのが大切だと思います。たとえば、子どもをあずけられるスペースをつくったり、子どもをつれてきて仕事をできるようにすることなどです。また、子どもをあずけられる保育園の量をふやすことも大切だと思います。また、結婚している女性でも仕事がしやすいように、家事を分担してやることも大切だと思います。これから先、少子化がとまってほしいです。

(※寸評:この作文は、少子化の要因を若い人の非婚化に求め、経済的な理由だけではなく、仕事に生きがいを感じている女性の立場も忘れないで対策を考えようとしています。その視点からは、女性が働きやすい職場をつくるのが優先されるべき課題となります。そして、保育園を、女性の社会進出を支えるための存在として位置づけているところにこの作文の特徴があり、趣旨は一貫しています。ただ、男性の立場についても言及して欲しかったですね。話題が女性と子どものことだけに集中したことが少し残念です。)

(3) 労働環境の改善が必要だとする作文

A組S.U. 私は、まず少子化の原因を考えてみると、女性の仕事と育児の両立ができなくなっているということだと思います。最近、ニュースでは「待機児童」という言葉がよくでてきます。つまり、保育所が足りないということです。なので私は、少子化の問題を解決するには、保育所を増やす必要があると思います。また、私は男性の育児の時間が少ないことも原因の一つだと考えます。なぜなら、日本にしか「過労死」という言葉はなくて、日本の男性は働きすぎており、家事をする時間がなくて全て女性にまかせていると思うからです。日本と外国の働き方を比べると、日本は残業をしてたくさん仕事をしていますが、外国は時間を有効に使い、家事を手伝っているそうです。「男は仕事、女は家庭」という考え方もありますが、今は女性でも働いている人がたくさんいます。なので、そんな考え方はなしにして、平等に家事も仕事もしたらいいと考えます。

少子化が進むと、労働人口が減り、労働力がおとろえてしまうと思うので、そうならないために、保育所を増やしたり、労働時間を減らし、男性でも家事をすることができる環境にして、働きながら育児をする母親を支援する社会になればいいと思います。

(※寸評:この作文は、保育所の不足を指摘しています。その上で、育児を女性だけが担っている日本の実情を改めるべきだと鋭く指摘しています。職場で置かれている男性の労働環境の厳しさにも目を向け、労働環境の改善がない限り少子化を克服できないと主張する論旨は一貫しています。)

A組T.S. まず、少子化が進むと人手不足で経済力が低下。経済力の低下は国力の低下を意味するので食料を輸入できなくなる。また、過疎化が進み伝統行事などが失われる。これを解決するために「男は仕事、女は家庭」と考える人がいるが僕は間違っていると思う。何故なら欧州では女性の社会進出率は高いが合計特殊出生率も高いからだ。僕は様々な環境を変えることで少子化はある程度おさえられると思う。たとえば子育ての環境だ。教育費を安くしたり、帰りが遅い親のために子どもを預かるし設をつくったりなどだ。まだ労働環境も改善するべきだ。なぜなら日本は男性が育児にかかる時間はとても短いからだ。欧州などでは男性は日本の2倍以上育児に時間をかけている。また過労死があるのは日本だけであり労働環境を改善すれば過労死という考えをなくすことができるからだ。

(※寸評:この作文は、日本の合計特殊出生率の低さを、男性の育児にかかる時間の短さに求めています。子育ての環境を整備することの必要性を訴えながら、男性の育児時間を確保するために、労働環境の改善を主張する論旨は一貫していて、とても鋭いです。ただ、職場と育児の両立は、かなりハードな仕事量になります。これも過労の一因になりそうですが、どうしますか。)

B組H.M. 少子化が進むと日本の経済力の低下、医療費の増大、年金制度の崩壊などの問題が起きる。少子化の原因としては若者の未婚化・晩婚化、養育費がとてもかかる、若者の所得が低いことなどが挙げられる。なお、女性の高学歴化、社会進出が原因だと考える人も多い。しかし、先進国の合計特殊出生率と、女性の就業率をまとめたグラフを見ると、そうではないことがわかる。就業率が80%を超える国でも、合計特殊出生率は2.0を越えている。つまり、就業率と出生率は関係が無いのである。日本人男性の家事や育児に関わっている時間は、世界でも最低水準である。日本語の「過労死」は、英語で「karoushi」となる。外国に「過労死」などという言葉は存在しないのである。つまり、労働環境が厳しすぎるが故に育児などの負担が女性にかかり、始めに述べた原因も含め、少子化が進んでいるのだ。だから私は、子育ての支援、また、働き方改かが必要であると考え。もう少し子育てに支援があれば、子どもをもちたいと思う人がふえるのではないかまた仕事をもう少し効率的にできて自由に使える時間が増えれば夫婦での負担の差は減るのではないか。こうしたことで少子化は解決できると私は考える。

(※寸評:この作文は、少子化の要因をていねいに説明しています。ただ、少子化の課題を克服する方法としては、労働環境の改善に絞って説明をしています。日本の職場の厳しさを過労死で表現して、家事との両立という理想がとうていできない実情にあることを例にあげている手法は説得力があります。ただ、この日本の重大な労働環境問題を克服するには、こえなければならぬ大きな課題が山積しています。今後の学習に期待します。)

C組M.I. 日本では現在少子高齢化が深刻になってきている。このままでは、たくさんの問題が起きてしまう。年金制度の崩壊、医療費の高とう、働き続けなければならない、人手不足等々だ。その中に経済力の低下がある。これは少子化によって起こる労働人口の減少が原因である。この問題はかなり致命的である。まずはこの問題を解決し、日本経済を守らねばならない。

では、何故そもそも少子化が起きているのか、だ。若者の労働環境の悪化、低所得、未婚率の上昇等が挙げられる。その中で「男性は仕事、女性は家庭。女性は子育てのみに尽くせば良い。」と主張する人がいる。それは、違う。なぜなら、倉橋先生のおっしゃる通り女性は縄文時代から働いている。そして、女性が活躍しているけれど少子化が起こっていない国もある。例えば、アイスランドだ。ここでは、赤ん坊も職場に連れて来てOKで、しかも育児休暇がすごく長くとれるそうだ。これは、女性らによるストライキがあったかららしい。よって女性の社会進出と少子化は直結しているとは考えにくい。

そのような国がある中で、日本は改革せねばならない状態にあるのだ。まず、働き方改革をして、労働時間を短縮すべきだ。男性も女性も、この改革によって空き時間ができ、子育てしやすくなるだろう。次に、様々な形態の子育て機関を増やすべきだ。知識と経験の豊富な高齢者によるもの、仕事の合間をぬって子育てに携われるように企業内につくるもの、学生の空き時間を利用できるよう、学校内につくるもの等だ。このような改革によって、世代、性別を超え、若い世代をたくさん育てていくべきである。

(※寸評:この作文は、アイスランドの取り組みを自分で調べて自分の意見を述べています。それをふまえて、女性の社会進出が合計特殊出生率の低さとは直結しないとする主張は説得力があります。また、労働時間の短縮によって育児の時間を確保するという方法も、様々な方法が提案されていて、とてもよく考え抜かれた力作だと評価できます。)

C組M.N. 日本は、今少子高齢化が進行している。このまま、進行し続けてはいけない。なぜなら、進行していくと、高齢者が増える中、年金制度がなくなったり、医療費が高くなったり、一生働き続けられないといけなくなったりするからだ。この少子高齢化の主な要因を考えたときに、若者の晩婚化や未婚化が増えたからや、女性が社会進出し、子育てとの両立ができなくなるという考えが多い。しかし、アメリカやノルウェーなどは、女性の労働力率も高い中、合計特殊出生率も高い。それに、男性の育児時間の割合も日本は10%にも満たないが、アメリカやノルウェーは35%をこえている。このことから、日本は、「過労死」がそのまま英語になるほど、労働時間が長いことや、女性と男性の間で今だに差別があることが分かる。だから、女性だけでなく男性でも育児ができる環境をつくるためにも、労働時間を少しでも減らす、短くすることが大切だろう。そして、労働時間を減らすためにも、高齢者でも働くようにするべきだ。今の私は、社会を動かすことはできないが、少子高齢化について、しっかり勉強し、社会に出て意識して過ごすことはできる。こうすると、必ず少子高齢化を止めることができる。

(※寸評:この作文は、女性の労働力率と合計特殊出生率の関係を示した資料と、先進国の男性の育児や家事労働の時間をまとめた資料を読み込んで、自分の論拠にしています。そして、育児を女性の仕事としないで、男性もすることで少子化を克服する。そのために労働環境の改善が必要だと訴える論理は一貫しています。)

F組H.F. 少子化がこのまま続くと、年金制度の崩壊やそれにより、一生働かないといけないう問題が起こる。まず、少子化を解決するには若者の所得を増やしたり、教育費の負担を軽減させたりすることが必要だと思う。なぜなら、今、日本は、子どもを産み、育てる必要のある若者の未婚化が進んでいる。しかし、若者は所得が低く、子育てできるほどの資金がないのだ。だから、経済的な支援をするべきだと思う。また、若者を中心に少子化で起こる問題をもっと伝えるべきだ。なぜなら、最初に述べた「一生働かないといけないう」という人は今の若者になるかもしれないからだ。一方で、女性の社会進出が少子化の原因だという人もいる。しかし、それは間違いだと思う。女性の就業率と合計特殊出生率の関係を表したグラフを見てみると、日本よりも就業率が高く合計特殊出生率が低いという国は見られなかった。むしろ、就業率が高いほど、合計特殊出生率も高くなっていた。つまり、女性の就業率と合計特殊出生率はあまり関係していないと分かる。次に、男性の家事・育児時間と合計特殊出生率を表したグラフを見ると、日本はどちらにおいても、先進国の中でかなり低い位置にいた。また、家事・育児時間が長いほど合計特殊出生率は高かった。このことから、労働時間を短くし、家事・育児に時間をかけることも対策の一つだと考える。このように金銭面を支援したり、若者に対しての呼びかけたり、労働時間を短縮したりすることが少子化を解決すると思う。

(※寸評:この作文は、若者の所得の低さに少子化の要因に求めています。そして、それは、未婚化の高まりの要因になっているからだ指摘し、一つ一つの現象にも前後関係があると整理できています。女性の社会進出についても、資料をていねいに読み込んだことを具体的に記述できています。それをふまえて労働環境の改善を主張する、とても説得力のある力作です。)

(4) 子育て家族への資金援助が必要だとする作文

A組M.T. 少子化の解決方法を考えるにあたって、少子化でおこる問題点、少子化の原因を明確にしておくことが大切だ。まず、少子化でおこる問題点について。少子化が進むと年金制度の維持が困難になる。そのため、一生働き続けなければならなくなるまた、少子化が進むと必然的に人口も減少する。人口が減少すると各地で人口不足が発生し、日本全体の経済力の低下も予想されている。そんな少子化は、なぜ起こるのか。その原因を、女性の社会進出だと主張する人もいる。だが、それは違うと思う。女性が社会進出している国は日本以外にも多くある。だけど、その国々のほとんどは少子化は進んでいない。だから、女性の社会進出は大きな原因ではないと思う。では、一番の原因は何なのか。それは、子育てに多額の資金がかかるということだ。子育てには多額の資金が必要なのに、若者の所得は少なく、労働環境も厳しい。だから、子どもをもちたくてももつことができないという人が多いのだ。そこで、私は、少子化を解決するために、子育て支援をもっと進めたら良いのではないかと思う。例えば、子どもの教育費を国で免除したり、第二子、第三子が産まれたら国から資金を与えたりすること。資金が原因で子どもをもつことをためらう人がいるので、このような資金での子育て支援が最も大切なのではないかと考える。

(※寸評:この作文は、女性の社会進出を少子化の要因とする立場を明確に批判した上で、子育てに多額の資金が必要なことに少子化の主な要因を求めています。若者がおかれてい

る状況も具体的に説明できています。対策も資金援助を中心に構成していて論旨が一貫しています。)

A組M.Y. まず、少子化は未婚化、晩婚化、子育てに費用がかかるということが原因で起きている。それをふまえて少子化で起こる問題点を4つあげる。1つ目は高齢者が増え子どもが減ることにより社会制度特に年金の持続が出来なくなる。2つ目は、子どもが少なくなり、過保護や交流の場がないことにより社会性の低い子どもが増える。3つ目は高齢化が進みたくさんの地域で過疎化、高齢化が起こり村がなくなる。4つ目は労働力人口の低下により人手不足になり、日本全体の経済がおとろえる。

そこで、私が考える具体的な対策としては、産休を増やす。子どもを職場に連れてこれるようにする。出産後生活維持手当などを支給するなどが考えられる。また調べてみると外国では外国人の出産を無料にしたり(イギリス)妊娠・出産に必要な費用全てに保険が適用される(フランス)などがあった。これらを実際日本で実現できるかは分からないが、参考にすることは充分できると思う。

今まで色々な対策について考えたが私が一番大切だと思うのは自分の意思で決めることだと思う。少子化のために子どもを産まなければとストレスを感じたりしてしまうのはもっと良くないことである。結婚するかしないか、子どもを産むか産まないかは人それぞれで考えはたくさんあるから、自分の意思で決めることで良い人生を歩むことができるのではないだろうか。私たち若者は少子化についてもっと深く考え1日1日を生きていくべきだ。

(※寸評:この作文は、自分で先進国の状況を調べて、自分の主張の論拠にしている力作です。

特に、イギリスやフランスの育児支援の様子を説明している部分は説得力があります。その上で、子どもを産むか産まないかは自分の意思で決めることだと、他の人が気づかないことまで言及できています。なお、この自分の意思で決める権利を「自己決定権」といい、最近の憲法理論上で課題になっている「新しい人権」の一つです。)

B組A.H. 少子高齢化が進むと、多くなった高齢者の年金などで少なくなった若者世代の負担が重くなります。それを解消するにはやはり子どもを産むことが一番良いと思います。しかし、そのために使うお金は膨大なものになります。若者の低所得化も進んでいる今では、子育てにお金を使うと、生活が成り立たなくなってしまう。そこで、共働き社会という妻と夫が両方働くという動きもありますが、そうすると、子どものめんどうを誰が見るんだ、という事態になります。これらの事態を解決できる方法は、「学費無償化」と「保育園増設」だと思います。もしも学費が無償化されれば、低所得化が進んでも対応できます。そして、保育園が増設されれば共働きの夫婦でも子供のめんどうを見てくれる場所があることで、安心して働くことができます。税金は上がるかもしれませんが、学費などよりはかなり楽になると思います。この2つが、僕の考える少子化の解決策です。

(※寸評:この作文は、他の作文とは異なり、「若者の低所得化も進んでいる今では、子育てにお金を使うと、生活が成り立たなくなってしまう」という展開で、少子化の要因を具体的な場面を使って説明しています。そこで、少子化の対策として、保育園の増設と、学費などの資金援助の必要性を訴えています。各家庭に経済的な支援だけでなく、保育の支援に言及していることで、生活の実情を踏まえて考え抜かれた作文だと分かります。)

E組Y.U. 現在の日本では、少子化によって、様々な問題がおきています。例をあげると、○生産力が少ないため、日本の経済力が落ちてしまう。○国に納められる税金が少なくなる。○年金制度の維持ができなくなる。などです。ではなぜこんなにも少子化が進んでしまっているのでしょうか。考えられる原因は、○高い育児費・教育費に比べ、若者の所得が少なく、余ゆうがない。○非婚化や、若者の結婚への意欲の低下。などがあります。これらの問題解決の案として、私は大きく2つあげたいと思います。1つ目は、「若者の育児費への負担を減らす」という案です。国が総力をあげて主に金銭的な面で、“子育て支援”を行えば、若者の負担も減り、結婚へのマイナスイメージを少しでも改善できると考えています。2つ目は、若者、特に女性の働く職場や社会全体の意識を変えていくという案です。女性の社会進出が少子化の原因だと言われることもありますが、私はそうは思いません。育児や家事は女性の仕事だという考えはまちがっています。育児も家事も、男性も積極的に行い、女性の負担を減らすということは、とても重要だと思います。この2つを意識するだけでも、少子化問題は変わると思います。

(※寸評:この作文は、少子化の要因に、高い育児費などと若い人の低い所得のアンバランスを指摘しています。それと若者の非婚化と結びつけて、経済的な支援の必要性を主張しています。その論旨は一貫していますが、それ以外の具体的な政策はなく、意識変革を求めるだけです。意識を変えるだけで乗り越えることができるほど、少子化の問題は単純なものではないだけに残念さが残る作文です。)